高津区おはなしアーカイブ

●川野和男（かわの　かずお）さん
昭和５年生まれ　84 歳
川崎市高津区末長在住

◆ご自身のプロフィールを

この家の三男として生まれました。昭和 26 年川崎市役所に入庁し､高津区や中原区、本庁など税務畑で仕事をしました。公務の傍ら、山岳会に入会し、八ヶ岳、南アルプス、日光連山、北アルプス等に山行しましたが、最後の登山で、厳冬期の北鎌尾根から槍ヶ岳をザイル仲間 3 人で登頂しました。何を思ったのか、今にして思うと若気の至りですかね（笑）。12 年間勤めた市役所をやめて、自営業で商店を始めましたが、後年、長男がボーイスカウトに入団していた関係でボーイスカウトの指導者となり、奉仕活動を始めました。朝霧高原で開催された日本ジャンボリ、世界ジャンボリにもリーダーとして参加しました。その時知り合った名古屋のリーダーとは今でも年賀状のやりとりをしています。

高津区も都市化が進み、近隣にスーパーが出店してきましたので、個人商店に見切りをつけ 8 年で閉店することになりました。翌年、幸いにも松下電器東京支社に採用されて、サラリーマンとしての再出発の機会を得ましたので、人生悔いのないよう努力した甲斐あってか事業部長賞をいただきました。

地元との付き合いは 58 歳になるまであまりありませんでしたね。それでも若い頃は川崎市青年団連合会橘青年団の体育部長として川崎市縦断駅伝大会で優勝したこともあります。また、体育大会には選手として出場したり、地元では、仲間たちと祭礼時には当時はやった青年芝居を演じ、村人たちを楽しませたりもしましたよ。振返ってみると戦中戦後にできなかった思いが一気に爆発したのかもしれませんね。

平成元年に父が亡くなり実家を継ぐことになり、あらためて地元との付合いが始まり、遅まきながら地域のために奉仕してきましたが、80 歳を過ぎたので現役を離れ、現在は隠居の身です。

◆どんなご家族でしたか

男 5 人女 3 人の 8 人兄弟姉妹です。母は若くして結婚し 15 年間子育てしたことになりますね。2 人亡くなりましたが、あと

は皆元気です。母は情けの厚い人でしたが、しつけには厳しかったです。目上の人に口答え等すれば、口をねじまげられたものです。男の私は兵隊に行って困らないようにと、裁縫の手ほどきを受けました。そんな厳しい母親でしたが、家庭内はいつも笑いが絶えなかったですね、父親には4人の姉妹がいましたが、その中に1人養女がいます。除籍原本によると岐阜県苗木村華族遠山友禅三女、入籍明治21年届出とあります。入籍した事情については定かではありませんが、遠山家は美濃苗木藩主の家柄で、1万石余の小藩でしたが、その三女の祖父である友禄氏は将軍家茂の時代には若年寄を勤め、信頼が厚かったため元治元年には再度若年寄を勤めたとの記録があります。

封建時代に平民の家である川野家に華族の娘が養女として入籍するということは当時の常識では考えられないことで、不思議でならないですね。

◆ご自宅と町の様子は

川野家の墓石からの判断ですが、今から350年前に土着したと思われます。市資料「村況資料集」によると4代前の人が村役である百姓代を勤めたと記されています。

実家は218年前の寛政9年に建てられたもので、関東大震災により多少の狂いは生じていますが、リフォームを重ねながら現在に至っています。我が家には宝暦時代からの文書があります。個人の家にあるのはめずらしいとのことです。複写したものが資料として、川崎市民ミュージアムに保管されています。末長村は東西に伸びた横長の地形です。私の家もごく最近まで農家でしたが、今はしていません。戦前は米や麦のほか、栗を栽培していました。戦後はナス、キュウリやカボチャなどの野菜の栽培も始めました。1年に何回も収穫できるので現金収入が見込めるからです。講中で協力して農耕馬を購入し、順番に使って農作業をしていました。昔は70数件農業を営んでいましたが、今は20件くらいでしょうか。

末長も都市開発により都市化されましたが、村時代の風習や付合い等は現在も残っていますので、農業はしていませんが続けています。

◆小学校の思い出は

千年にある橘小学校出身です。橘地区には一校だけしかありませんでしたので、新作、明津、千年、蟹ヶ谷、子母口、末長、久末、野川の一部から通ってきていました。私達の学年は男子26名、女子40名くらいでしたので、男女共学でした。他の学年はもちろん別クラスですよ。坂下の阿弥陀様跡前に集合して、昔の細い砂利道を歩いて通いました。遊びは手作りで、水鉄砲、竹馬、竹トンボ、兵隊ごっこ等夢中でしたね。お正月にはケンカ独楽、凧揚げ、すごろく等に単純な遊びばかりでしたが、仲間と一緒に遊びましたね。

遠足は、小学校1年生の時は野川にある影向寺だったと思います。それから高学年になるにつれて多摩川遊園、上野動物園に行ったと記憶しています。6年生になると市で汽車を貸し切って伊勢・京都・奈良に参宮旅行に行きました。親から離れ旅館に泊まり、楽しかったです。アルバムに貼ってある写真をみると、童心に戻りますね。運動会も楽しかったですね。徒競走はいつも一番でした。いつも坂道を歩いていますので、健脚でした。兄弟姉妹皆選手でした。市内の学校の運動会には、他校選手として出場しました。橘小の運動着はこげ茶でした。

私達のクラスは次男坊が多かった関係から地元を離れている人が多いので、級会は何年もしていません。先生も亡くなり、同窓生も一人二人と欠けていっています。80歳を過ぎるとそれぞれ体に不調を抱えていますので、会いたい気持ちはあるのでしょうが、声をかける人がいないのが現実です。

◆戦争中はどのような学生時代を過ごされましたか

小学校を卒業して、旧制中学の法政二中に入学しました。2学期の夏だったと思いますが、富士の滝ヶ原兵舎に軍事訓練に行きました。2泊3日だったと思います。新校長は陸軍井上中将で、その弟さんは有名な江田島にあった海軍兵学校長の井上大将とのことでした。新校長は兵舎には黄色の旗のついた車で来られました。その時は衛兵が将官ラッパを吹き新校長を迎えました。16・17歳の少年ですので、夜のトイレは暗闇で怖かったですね。でも楽しみもありました。兵舎の中の酒保には、まんじゅうなどの甘いものがあって食べることができました。「欲しがりません勝まつでは、兵士さんありがとう」、そのものでした。

昭和19年だったと思います。自宅でゲートルを巻き、腕章を着けて学徒動員の1人として学校に集合して、隊列を組み、歩いて向河原にある住友電気に行きました。今の日本電気です。級長の頭右の号令で歩調をとり、堂々と入門しました。工場内では男女工員さんと一緒に指導を受けながら一生懸命働きました。美人の女工さんに可愛がられましたよ（笑）。武相中学、大西学園女学校、成美学園女学校等多数の学校が学徒動員されていました。今思うと、自分のことですが、よくやったなと感心してしまいますね。

宮前区馬絹には赤坂から転営した東部62部隊が、また、家から5分位の畑地の中には防空隊がありました。福島出身の人が多かったですね。夜間にB29が上空を通るときに探照灯を飛行機に向けて、高射砲が打ちやすいように照らしていました。昭和20年4月だったと思いますが、防空隊めがけて投下された焼夷弾が外れ、近隣民家に落ちました。その時の被害は民家7軒寺2軒が全焼しました。我が家の庭先に積んであ

った稲叢にも焼夷弾の油火が飛び散り、消すのが大変でした。我が家から正面の方角に檀家寺があり、火の手があがり疎開児童の鳴き声、先生の叫び声、思わず母親は手を合わせていました。地獄絵そのものでした。

敗戦は学徒動員中で、住友電気で働いているときに玉音放送を聞きました。学校も焼けてしまいました。

今思っても、あのときは、本当にごく自然に皆が、戦争に志願したんですよ。映画館では、映画の前にニュースが流れたていたんですが、その中に天皇が出てくるだけで、脱帽ですよ。本当に当たり前のことだったんです。いやー、今思うと・・・。

◆その大変な時期の法政の思い出は

高尾山に登ったことをよく憶えています。帰路は全員で学校まで強行進しました。どの辺りからか憶えていませんが、喉は渇くし、足はつかれるし大変でしたね。

あと、高座郡足柄の出征兵士の留守宅農家へ2泊3日で農作業の手伝いに行きました。家では稲刈り等をしたことはありませんでしたが、鎌の持ち方が他の人と違うねとほめられました、解かるのかな（笑）。夜は蚤に悩まされました。これもお国のためかなと思いましたね。

あと、何かがあると、すべて連帯責任で全員ビンタです。ゲートルを脱いで学校の講堂の板の間に正座させられました。

◆葬儀の際や村の行事などの念仏講がまだ残っていますか

昔の末長村は3人の旗本の支配地でした。昔は6講中でしたが、現在は7講中あります。呼名は西から、ササノ原、カミ、スクモ、ナカ、ダイ、ゴミョウ、オダカの各講中です。各講中は12、13軒で構成されています。

私の住む透茂台の講中は、年1回新年会を兼ねて村組織の当番役員を確認しあっています。各家の長男の結婚式には招待されることになっています。葬儀の際は、通常は通夜・告別式2日間手伝いに行きますが、昔と比べるとだいぶ簡素化しています。役割は、コの字型に折った竹を二人で持ち、その下をお棺を潜らせ、別の1人が鐘を鳴らしながら霊柩車まで先導します。残りの人は生花を持ったり、お棺を運ぶ役目にまわります。納骨の際は、鐘を鳴らしながら墓地まで先導します。喪主からお清めとして1万円いただいています。

納骨・初七日のお経も終わり親族が墓参りしている間に、念仏をします。30分位です。終わると親族と一緒にお清めの会食にあずかります。講中の者は上座の席につくのが習わしです。

増福寺には観音様が安置されている関係上12年に1度午年の年にご開帳があります。この期間には明鏡寺の檀家の者も一部世話人として手伝いに行って、お参りに来る人へのお茶出しをします。

大山街道沿いのねもじり坂上に明鏡寺持ちと言われた子育地蔵堂があります。12 年に１度、酉年のご開帳のときには笹の原講中の方が仕切って行います。村としては手伝いはしていません。このような慣習しきたりはまだまだ受け継がれていくと思います。

（平成２６年８月１日実施）